

大学生の 7 割以上「京都議定書って何？」

小学校から高校までの「エネルギー環境教育」不足が影響か

～「大学生の意識調査・小中高対象アンケート調査」から判明～

財団法人社会経済生産性本部・エネルギー環境教育情報センター（辻村 哲夫委員長）が、昨年実施した 2 種類の調査から、大学生で本年 2 月に発効した「京都議定書」について内容まで説明できる学生は 3 割に満たないことが分かった（男子学生 25%、女子学生 27%）（図 1）。他にもエネルギーや環境の問題と自らの生活がどのようにに関わりがあるのか、半数近くが理解していなかった（図 2）。

一方、同時期に行った小学校から高等学校までを対象とした「エネルギーやエネルギー問題の取り扱いに関するアンケート調査」の結果からは、エネルギーやエネルギー問題に関する教育への取り組みを 9 割以上の学校が重要と認識しながらも（図 3）実際には、「時間的制約」や「エネルギー教育の理念が曖昧で学習内容が体系化されていない」（79%）「教科間・学年間の連携を踏まえた系統性がない」（81%）等の理由もあって、十分な教育が行われていない実態が明らかになった（図 4～図 7）。

こうした高校までの教育の実態が、現在の大学生のエネルギーや環境問題への認識や行動に大きな影響を与えていると見られ、今後、二酸化炭素（CO₂）等の温室効果ガスの排出削減を国民全体の課題として位置づけ、取り組んでいく上で、学校教育における「エネルギー環境教育」のあり方が重要な課題であることが改めて浮き彫りとなった。

主な調査結果

（エネルギー・環境問題に関する大学生の意識と行動）

- 「京都議定書」の内容まで説明できる学生は男子 25%、女子 27%
- 30 年後のエネルギー・環境問題の見通しは女子で 8 割、男子で 7 割が悪化と回答
また、エネルギー・環境問題の解決に自ら行動するという回答もほぼ同数
- エネルギー・環境問題と生活との関わりを実感できない学生は男子 48%、女子 47%
- 豊かで快適な生活を続けながら、エネルギー問題を解決できると 7 割が回答
- 地球環境や子孫のために省エネを行うべきとは思えない男子 43%、女子 35%
- 小・中・高校のエネルギーや環境関連の授業を増やすべきと 8 割が回答
- 「エネルギー・環境」についての情報源 1 位は「テレビ・ラジオ」67%、
2 位に「中学・高校の授業」46%

主な調査結果

(学校におけるエネルギーやエネルギー問題の取り扱い)

- 9 割以上の学校がエネルギー環境教育の重要性を認識
理由の 1 位は「地球環境問題の重要性を認識させるため」を 7 割が選択
- 一方で、時間的余裕がない(8 割)という理由で、7 割以上は教科書記述を
なぞる程度の扱い
- 「総合的な学習の時間」でエネルギーをテーマにしている学校は 1 割
- 学校でのエネルギーに関する教育の現状についての認識
「教師が教材研究を行う十分な時間がない」(83%)
「教科間・学年間の連携を踏まえた系統性がない」(81%)
「エネルギー教育の理念が曖昧で学習内容が体系化されていない」(79%)
- 「エネルギー教育」を学校で定着させるための改善の視点
「小学校から高等学校までの一貫したカリキュラムの作成」(58%)
「エネルギーを身近に捉えられる教材の作成」(56%)

1. 調査概要

(1) 「エネルギー環境教育推進のための大学におけるエネルギー環境教育の実態調査」(資料 1)

対象：大 学：全国の大学および関東地区の短期大学(大学 603 大学、短期大学 146 大学)

回収数 274 大学(回収率 36.5%)

大学生：地域拠点大学、エネルギー教育コーディネーターを通して協力を依頼。

回収数 2,261 名(18 大学)

時期：2004 年 7 月～12 月

内容： 大学におけるエネルギーや環境への取り組み、またエネルギー環境教育の実施状況について

大学生のエネルギーや環境、またその問題についての意識や行動について

(2) 「学校におけるエネルギーやエネルギー問題に取り扱いに関するアンケート調査」(資料 2)

対象：全国の小中高校から 3,000 校を無作為抽出(小学校 1,500 校、中高校各 750 校)

回収数 647 校(回収率 21.6%)

時期：2004 年 11 月

内容： 学校教育におけるエネルギーやエネルギー問題の取り扱い状況

エネルギーやエネルギー問題に対する教師の意識

2. 結果の抜粋

(1) エネルギー・環境問題に関する大学生の意識と行動

図1. 京都議定書について大学生が説明できる割合

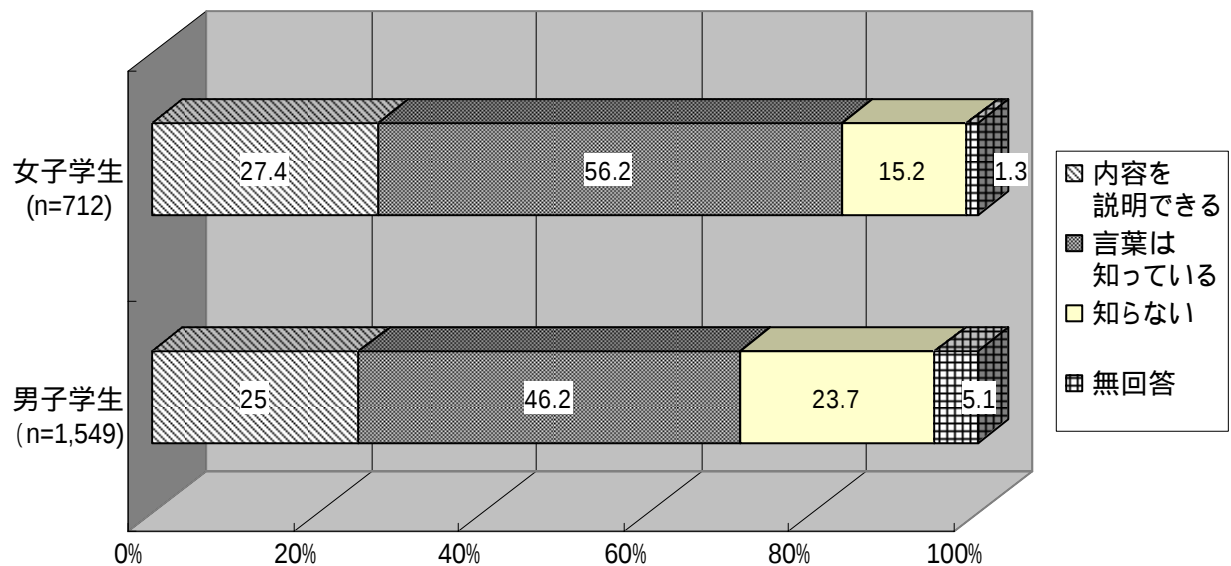
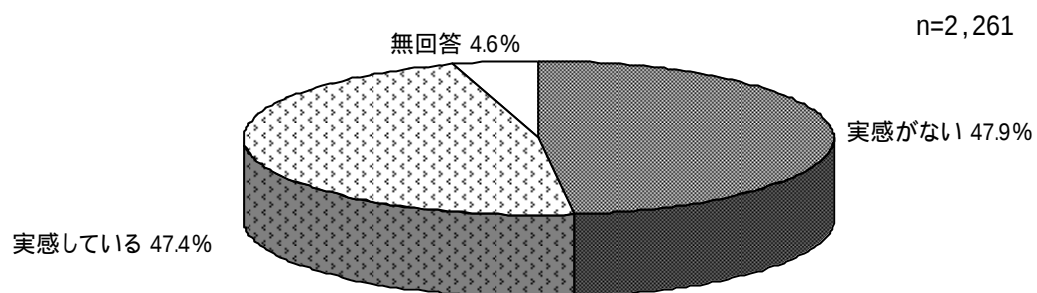


図2. エネルギー・環境問題と自分の生活と
かかわりがあることを実感しているかどうか



(2) 学校におけるエネルギーやエネルギー問題の取り扱い

図3 . 学校で「エネルギー教育」に取り組むことの重要性について

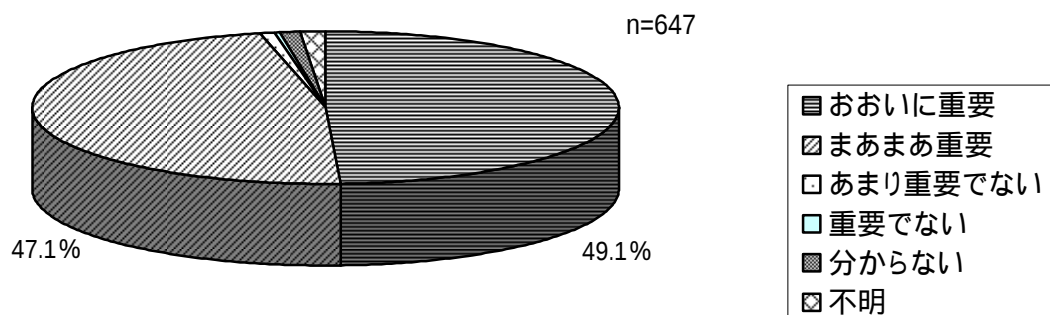


図4 . 学校教育におけるエネルギーやエネルギー問題の扱い

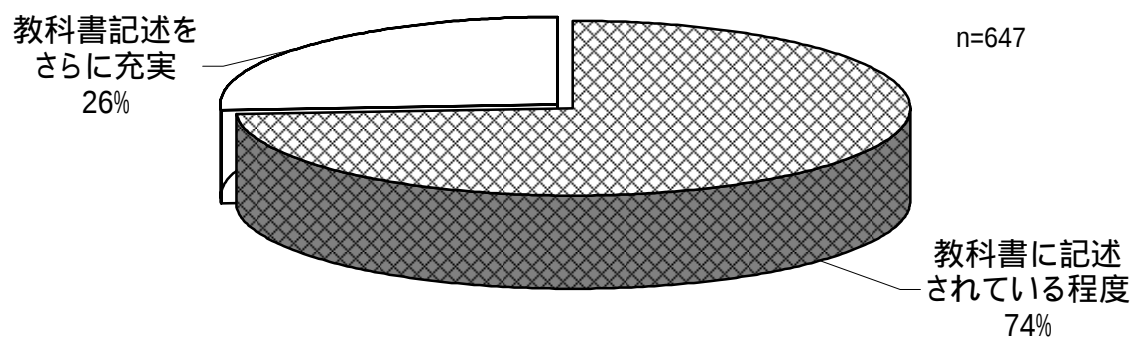


図5 . 扱いを充実させられない理由

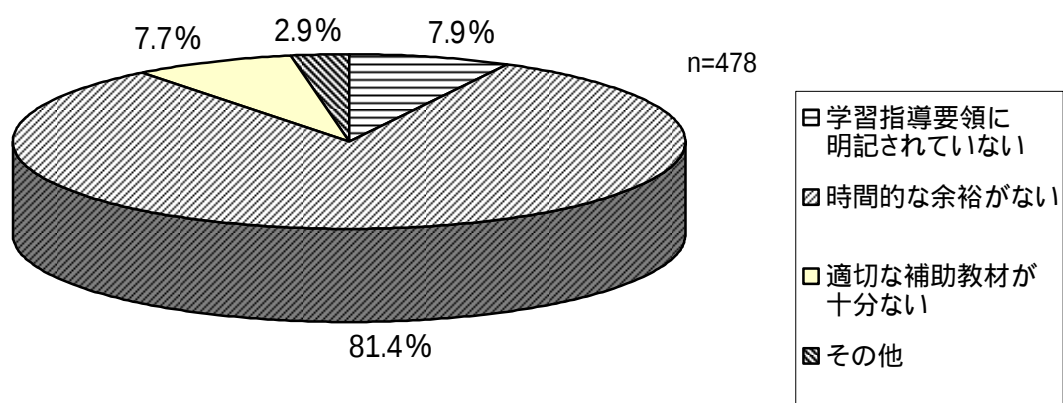


図6 . 学校教育でエネルギーやエネルギー問題を扱うことが重要であるとする理由

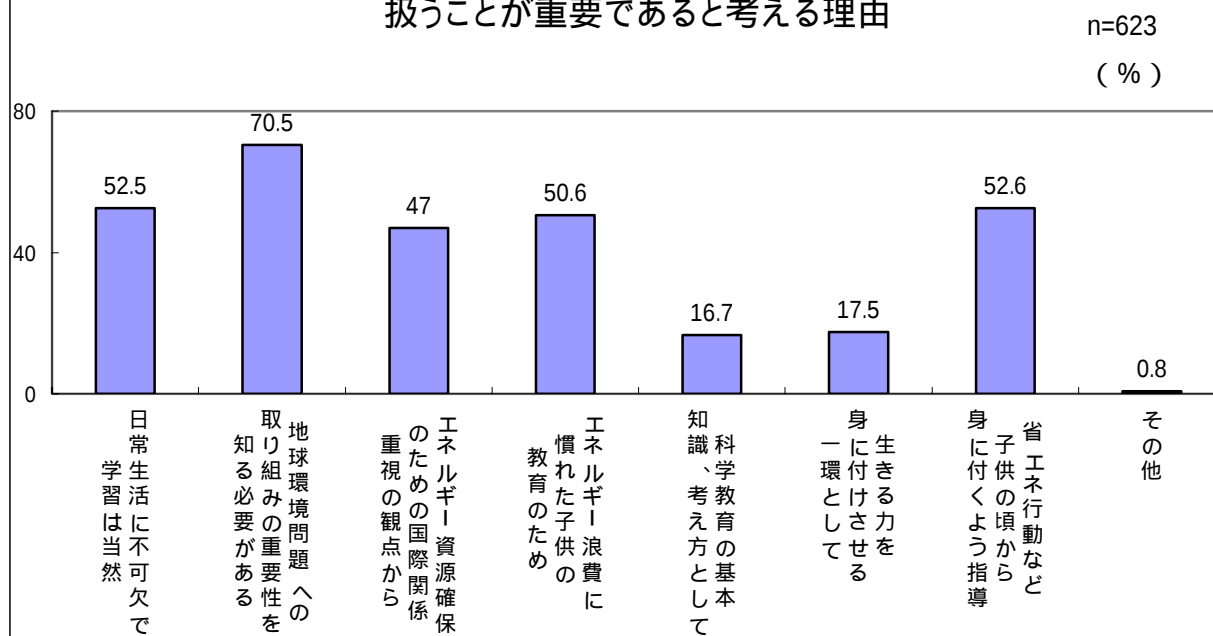


図7. 学校における「エネルギー教育」の現状に対する評価

(その他を加え19の指摘事項について、「おおいにそう思う」「どちらかといえばそう思う」合わせて75%を超す回答があったものについて抽出した)

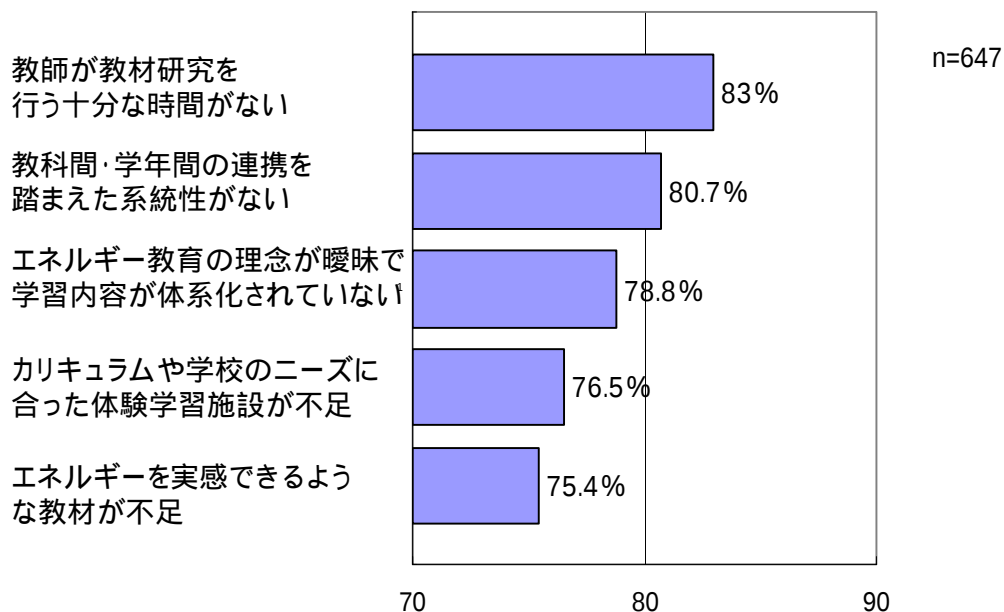


図8. 教科書記述を見直す場合の重視すべき点

(その他を加え12の選択肢から30%を超す回答のあったものを抽出した)

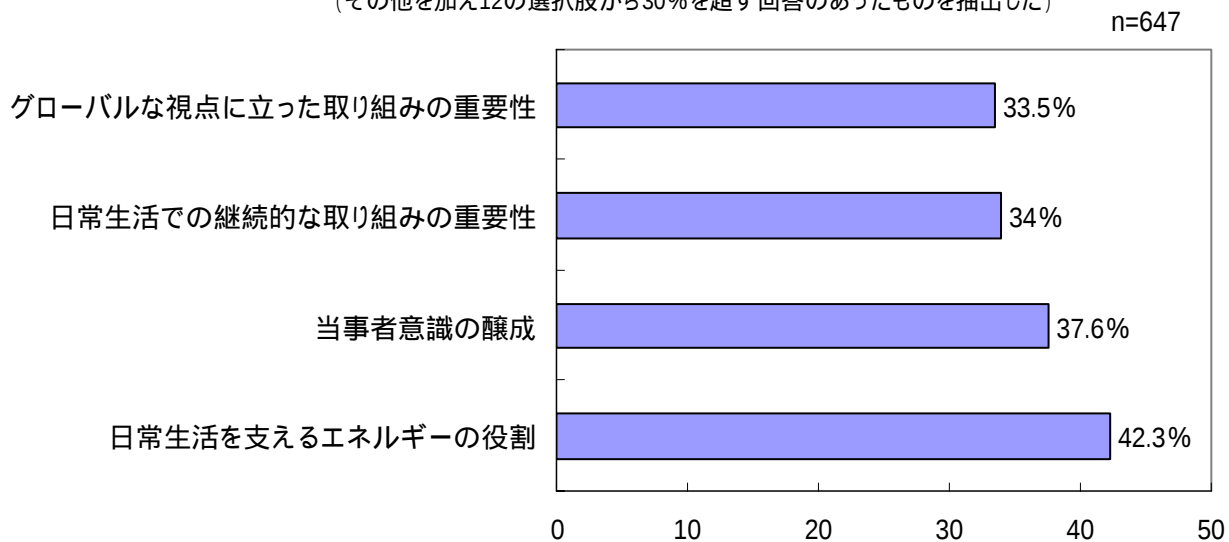
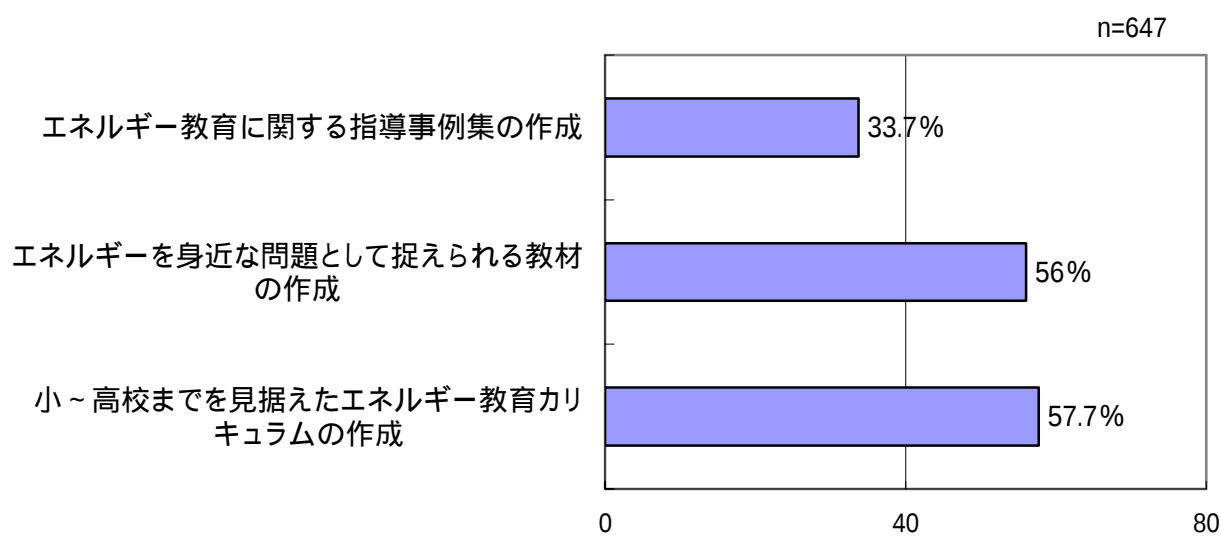


図9．学校で「エネルギー教育」を定着させて
いくための改善の視点

(その他を加えた10の選択肢から30%を超す回答があったものを抽出した)



以上